

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第2回坂戸市社会教育委員会議
開催日時	令和3年10月14日(木) 開会：午後2時00分 閉会：午後3時40分
開催場所	坂戸市役所 401会議室
議長(委員長)	小川 孝
出席者	大川 泰弘、奥隅 一之、石橋 妙子、水村義直、中村 博、 横田 恒雄、田中 映子、鹿ノ戸 久美子、久保田 美穂、 杉田 義昭、吉田 幸治、小川 孝、横田 政行 13名出席
欠席者	金丸 行男 1名欠席
事務局	安齊教育長、宮崎部長、岡田次長兼社会教育担当副参与、勝俣図書館長、仲島スポーツ推進課長、間々田中央公民館長、粟生田社会教育課長、尾澤社会教育課課長補佐、三塚社会教育課主事
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司会(事務局) 教育長	委嘱状交付(水村委員)
司会(事務局)	1 開 会
委員長	2 あいさつ 昨年の10月以来の対面での会議。今年度第1回は新型コロナウイルスの感染状況に鑑み書面審議で行い、会うのは1年ぶり。感染者が減ってきたが、まだ予断を許さない。

<p>教育長</p>	<p>今日は大変忙しい中、殆どの方に参加してもらい感謝する。対面での会議を通し、坂戸市の社会教育が少しでも前進できればよいと思っている。</p> <p>現在、入間地区社会教育協議会社会教育委員部会の部会長をしている。入間13市町の社会教育委員の代表が集まる会議で、社会教育委員会議の出席が悪いと聞く。特に校長はほとんど出席しないようだ。ところが、本日は2人来ていただいた。坂戸市の校長会の会長、中学校長会の会長であり、多くの要職をかかえているにも関わらず、この会議に出席いただいている。意見を伺う貴重な機会である。</p> <p>ほかの方も、それぞれ公務、仕事で多忙の中来てもらった。御礼申し上げ、坂戸市の社会教育の前進のために、よろしくお願ひし、あいさつに代える。</p> <p>お忙しい中出席をいただき感謝する。新型コロナウイルスの感染拡大により、第1回社会教育委員会議は書面協議で開催した。本日対面での会議となるが、少しずつ新型コロナウイルスの脅威から回復の兆しが見え始めたようだ。</p> <p>坂戸市内の小中学校で初めて陽性者が出たのが昨年8月の初旬である。そこから今年9月までに99名の児童生徒が陽性となった。その内の7割近い児童生徒が、デルタ株が広まったこの7、8月に陽性となった。9月に陽性者が大幅に減り、最後に陽性者が出たのは9月14日。本日で坂戸市内の小中学校では、ひと月陽性者が出ていないという状況である。感染拡大防止に向けて、気を引き締めたい。</p> <p>本市では8月から9月末まで公民館や図書館などの市内公共施設を休館とする措置をとった。わんぱく相撲大会など、昨年同様中止となった事業も多数ある。一方で、子ども大学にしているまや、少年の主張大会、公民館、地域交流センター文化祭など、オンラインでの実施や無観客での開催を予定するなど、感染防止対策を行っての事業実施を進めている。新しい生活様式に沿った事業の展開に努めたい。</p> <p>結びに、委員の民様の健勝と活躍を祈念し、あいさつとする。本日はよろしくお願ひする。</p>
<p>各委員 事務局 事務局</p>	<p>3 自己紹介</p> <p>(資料の確認)</p>

<p>(議長：委員長) 事務局</p>	<p>4 さかど市民塾企画書審査委員会委員の選出 (資料に沿って説明)</p> <p>昨年度第1回坂戸市社会教育委員会議において、田中副委員長、山崎委員、鹿ノ戸委員の3名が選出された。令和3年6月30日付で山崎委員が社会教育委員を辞職したため、後任として1名の選出をお願いするものである。</p>
<p>議長</p>	<p>委員の選出についてどのような方法がよいか。</p>
<p>委員</p>	<p>指名推薦はいかがか。</p>
<p>議長</p>	<p>指名推選との発言があったが、異議はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>議長</p>	<p>異議なしと認める。推薦する方はいるか。</p>
<p>委員</p>	<p>中村 博委員を推薦したいと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>中村委員という発言があったが、異議はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>議長</p>	<p>異議がないようなので、市民塾企画書審査委員会委員については、中村委員を後任として、田中副委員長、中村委員、鹿ノ戸委員の3名に決定する。</p>
<p>議長</p>	<p>5 協議事項 (1) 社会教育関係団体等での青少年活動への取組について 前回の書面審議の中で多くの委員から「坂戸市子ども会育成会連絡協議会(以下、市子連)がなくなったために、今後どう考えたらいいのか」という意見が大変多く出たので、協議を進めていきたいと思う。 ではまず、事務局から説明願う。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料に沿って説明) 今後の地域における青少年活動について考えていくにあたり、子供会等を把握する必要がある。委員の皆様からどのよう</p>

	<p>にすべきか意見をいただきたい。</p>
議長	<p>意見を全て読んだ。坂戸市のこれからのことを危惧していることが分かった。坂戸市の子供会活動について今後どうすべきか、意見を多くの委員から聞きたいと思う。</p>
委員	<p>今までの組織の形を確認したい。単位、地区、市の子供会があったのか。単位、地区、市の育成連絡協議会があったのか。解散したのは市子連か。</p>
事務局	<p>坂戸市全体の、市子連が解散となった。その市子連の傘下に、各地区の子供会があり、さらにその傘下に単位子供会があった。</p>
議長	<p>市子連は令和2年7月に解散した。解散は社会教育委員会議で協議したわけではなく、解散後に報告があったため、理由は分からない。役員のなり手がない、後任が見つからない、各自治会にある子供会が市子連に加入しない、そういったことも一因のようだ。</p> <p>入西の竹ノ内にも子供会がある。隣の長岡と組んで、細々と子供会を組織し活動もしている。しかし、市子連への加入を勧めても入らない。そのように市子連の加入率が減り、最終的には運営が成り立たなくなって解散に至ったのでは。</p>
委員	<p>子供会と育成会は区別できる。市子連、市の単位の育成会は解散した。しかし、委員長の言うとおりの地区や単位の子供会は残っている。残った子供会や、育成会の実態が分かった方が検討しやすい。</p>
委員	<p>組織の形式、団体数、活動内容等が分からないという話だったが、少なくとも令和2年度の団体数からの増減を把握し、その各団体が市子連に入らない理由をはっきりさせなければならない。</p>
委員	<p>2つある。浅羽野地区には浅羽野地区子ども会育成連絡協議会（以下、浅子連）があり、非常に熱心だが、新型コロナウイルスの関係で活動ができないと聞いている。市子連に加入していない浅羽野地区3団体は浅子連だと思うが、理由が分からない。</p>

議長	<p>もう1つは、川越市や、日高市、吉見町、三芳町は非常に小学生の加入率が高い。理由が分かるとありがたい。</p> <p>数年前に飯能、越生の子供会が解散した。その状況でも川越市の子ども会加入率が81%。日高市、富士見市、三芳町も高い。このことについての情報は事務局のほうで把握しているか。</p>
事務局	<p>示した資料は入間地区の調査結果を情報提供という形で提供されたもの。詳しい内容については把握していない</p>
事務局	<p>補足説明をする。</p> <p>昨年7月に解散の連絡があったのは、指導者や保護者の団体である。会長からは、役員のみ手が非常に難しいと聞いていた。</p> <p>市子連は、市の社会教育団体として補助金を交付し、会長が社会教育委員としてこの場にいた。</p> <p>概ね合併前の町村の地区に地区子連があった。昨年の解散当時は、三芳野地区子連と、勝呂地区子連が残っていた。残っている地区子連には、公民館の体育祭等で公民館や体協支部と連携し地域の青少年の活動に一役買ってもらったが、勝呂、大家、三芳野地区子連が解散したと聞いた。地区子連として残っているところは、現在のところ、公民館や、社会教育課も把握していない。</p>
委員	<p>大変残念。森戸も子供会があるが、そのように町内会と一緒に活動しているところが多い。町や自治会単位での子供会はまだ継続しているところは多くある。</p>
議長	<p>入西地区の子供会という組織はない。その下の、本当に地元だけで細々とやっている。体育祭等に協力したり、文化祭に協力したり、活動はしているが、その上の組織には参加できないようだ。</p>
委員	<p>市子連の役員だけの検討で解散することは通常の組織では考えられない。外からの連絡事項や、決めた活動方針を地区や単位に伝達していくはず。本来であれば、下の人から意見を吸い上げて、解散する。</p> <p>子供会と育成会とは分けて考え、なぜ育成会があったのか、</p>

議長	<p>活動をどうすべきか子供会で相談する必要がある。育成会を再度立ち上げても、意見を整理しないと同じことの繰り返しになってしまう。</p> <p>前会長は一生懸命活動していた。悩みもあったと思うが、社会教育委員会議で話をしなかったため、急な解散に至ったと思う。問題があった際はこの席で話し、委員の意見を聞く。そうすれば、問題も解決していくのでは。</p>
委員	<p>新型コロナウイルスが2年流行し、非常に心配している。昨年、市P連と関わった中で、「1年間活動が出来なかったが、それでも運営が出来たのだから、今までの活動自体なくてもいいのでは」という意見が出たようだ。学校でも先日種目を縮小、時間を短縮し運動会を実施したが、準備も早く楽だ、という声もあった。しかし、そもそも運動会の価値や目的とは何かを話し合い、新型コロナウイルス終息後は元に戻すことになった。そもそもの目的が抜け落ちてしまうと、そういうことにもなりかねない。</p>
委員	<p>浅子連は3つの地域で構成されているが、人数等を聞いてきた。令和2年は46名の会員だったが、今年度は40名。世帯数も、去年は36世帯だったが、今年度は31世帯。令和3年4月現在の調べで、中富町は10世帯加入で会員(子供)は14人。花影町は5世帯加入で会員8人。浅羽中央は16世帯加入で会員18人。交通指導の表で見ると、中富町は児童のいる家庭65世帯くらい。そのうちの10世帯。</p> <p>関心が薄くなっている。会員が少ないため、加入するとすぐ役員となる。そういうことで加入が少ないようだ。</p> <p>区から補助金をもらうが、新型コロナウイルスで事業実施ができず、お土産や記念品を配るなどしている。加入している家にだけ区のお金を使っていていいのか、という話もあるようだ。</p> <p>また、浅子連は、今年40周年を迎えるらしい。歴史はあるが、坂子連には所属しないで活動をしてきたようだ。浅子連の事業は核になる方がいて、その方が一生懸命やっている。</p>
議長	<p>浅子連を結成しながらでも、実情は非常に厳しい状況のようだ。</p> <p>先日、副委員長と事務局で相談した内容を伝えて欲しい。</p>
副委員長	<p>子供、保護者がどういう青少年活動を望んでいるのか把握</p>

<p>議長</p>	<p>しないと、会議の考えとギャップがあっては進まない。実情を調べたほうがいいのではないかと。</p> <p>また、市子連がなくなったが、同じような組織を設けるのは難しい。</p> <p>少子化が進んだり、スポーツ少年団（以下、スポ少）に入ったり、子供は近くで遊んでお母さんは働きに出たり、今の生活スタイルは数年前とは違う。その生活スタイルに合うように考え方を考えていかないと、受け入れてもらえない。子供が楽しむ居場所を作るにはどうすればよいか、子供会という枠を飛び越える必要がある。</p> <p>そのために、まずはアンケートで実情把握をしていくのはどうか。</p> <p>アンケートをする場合には予算もかかるが、今年度はその予算について計上していないため、例えば来年に実施するのはどうか。事務局がアンケートのたたき台を作り、内容等を会議で協議してはどうか。事務局からはそのように聞いている。</p> <p>現在の坂戸市の現状、また、各地域の考えを、現場である区長などがどのように認識、意識しているか。スポ少も年々減っており、団体が少なくなって、合併して開催しているという話も聞いているが、間口を広げず、まず地域の子供会の実情あたりを我々が把握する。その第1歩を踏み出したらどうかということをお話した。意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>自分が子供の頃は当たり前前に子供会に加入していたが、今は子供会に入らない家庭もあり、そんな時代なのだと最近思った。子供会があるのが普通という前提で話をしているが、子供会というのは任意参加の団体という認識でよいか。そうであれば、子供会の加入人数が減っていることや、市子連が解散したことで、どんな影響があるのか分からない。子供会自体は地域の方が寄り合って活動していると思うが、その地域で必要ないと判断したのであれば、会議で議論する理由が分からない。</p>
<p>議長</p>	<p>第1回会議で青少年活動について意見を募ったところ、各委員から、坂戸市の青少年活動は今どうなっているかという疑問が出された。その意見を大事に捉えようではないだろうか、副委員長及び事務局と話した。事務局が勝手に議題として出したわけではなく、委員の声の中から、今後どうするか考えてきた。</p> <p>また、子供会が任意団体なのかと質問があったが、先に話した竹ノ内と長岡の小さな子ども会は全員加入である。区費か</p>

<p>委員</p>	<p>ら僅かな補助金をもらい細々と活動している。体育祭に出てもらい、入西地区は長縄跳びなどしている。子供会の練習に区長さんがお菓子を持っていくなど、本当に小さな活動だけでも、ぜひ存続してもらいたい。</p> <p>地区体育祭は日曜日にやる。スポ少の活動も日曜日にある。昔は地区体育祭に皆行っていたが、今は少年団に行く。</p>
<p>委員</p>	<p>スポ少が発展した時代は、子供会も両方共存して一生懸命取り組んでいた。地域は地域で子供を育てようと、土いじりや文化事業をして育成につなげようという流れがあった。スポ少はスポーツを通じて子供たちを育成しようという流れがあった。参加しやすさや、指導者が指導してくれるということで、スポーツ系に流れたという印象を受けた。本当は大事だが、子供会は地域で何をやるか、なかなか目に見えない。保護者が、スポーツの方が子供の成長が分かりやすいと考えたのでは。子供を良く育てるためには、自分の家の子供だけ育ててもだめで、自分の子供に影響してくる他所の家の子供もしっかりと育てる必要があると考えていけば、活動ができていたと思う。結果として子供会は縮小が進み、現在はスポ少も減少してきてしまった。子供が減ってしまったのか。</p> <p>もうひとつ、浅羽野にも子供会があり、区から補助金を出している。これは子供会に加入している子供に出す補助金ではない。地区全体に対し、子供会、育成会が何かをするための補助金。なので、子供会だけで使ってはいけない。地区の子供全体のことを考えた補助金のため、それを頭に入れて使ってくれと常に言っている。地区の子供で集まり、クリスマスパーティーなどをする。育成会は子供ができないことをして、他は見ているだけでいいと思う。昔はそんな活動だったが、育成会が行事を始め、役員の負担になってしまったのでは。地元で活動するためにはどうしたらよいかを相談するための会でよかったのではないか。</p> <p>また、自治体単位で、環境部会や防災部会等、様々な部会がある。その中で子供会のようなものを設け、地区の子供はそこで把握し、自治会全体で接する。地域の中の行事に出席した中で、触れ合いができればよい。</p>
<p>委員</p>	<p>私は市内5つある包括支援センターで、地域ミーティングを行っている。そこの中の大きな課題は、ミーティングの参加</p>

議長	<p>者は高齢者が多いこと。一番の課題は、多世代交流。各自治会等を次の世代につなげる必要がある。役員等もそうだが、担い手を地域で育てるため、多世代サロンをつくりたい。子供の現状や活動の交流を共有する場があるとよい。</p> <p>この問題だとおそらく時間を相当かけても結論が見えない。今日は結論という形ではないが、事務局では1月に第3回を予定しているようなので、アンケート原案を作り、細かなものについての検討は次回にしたい。</p> <p>事務局のほうでアンケートの方法について資料を作っているようですので、説明してもらおう。</p>
事務局	<p>(資料「資料番号1 案」に沿って説明)</p>
委員	<p>区長は子供会については把握していると思うが、地域の青少年団体や事業実施団体は把握していない。1、2やればよい。</p>
委員	<p>子供会という名称を使っているが、育成会なのか、親も子供も混ざっている団体か分からないので、子供についてのアンケートにしたらよいのでは。</p>
事務局	<p>青少年教育について社会教育委員会議で意見を伺った際、実態は子供会だけでも市子連に加入することがなかった団体が多いのではという指摘もあり、本日の議論につながっている。事務局は、遊びを通じて地域とふれあい、人間性を成長させる組織を子供会と捉えている。市子連に入っていないというものではない。そういった子供会の定義をアンケートに明記したうえで、「子供会、あるいは地域との触れ合いを通じた育成組織」という表現をするよう考えている。</p> <p>今後原案について事務局で整理する。このほか意見があれば事務局に情報提供してほしい。</p>
議長	<p>次回までには事務局で原案を作ってもらおう。お金がかかるので今年度というわけにはいかないが、次年度の大きな事業になると思う。事務局や私、副委員長も含めアンケートについて検討して1月の会議に提案する。</p> <p>意見があれば、会議後でも事務局に電話等で伝えてほしい。</p>

事務局	<p>(2) 令和5年度以降の坂戸市成人式名称について (資料に沿って説明)</p> <p>本日はアンケート調査の結果等を踏まえ、社会教育委員の皆様の見解を伺い、令和5年度以降の坂戸市成人式に替わる名称決定の判断材料としたい。社会教育委員会としての統一した意見を求める予定はない。</p> <p>今後の名称決定の流れは、11月に公民館運営審議会において今回と同様に意見を伺い、各アンケート調査の結果、そして各審議会委員の皆様の見解、県内他市町村の状況を取りまとめ、11月上旬には市長に報告の上、考えを伺い名称を決定していきたい。</p>
委員	<p>新成人を迎える方々に対する私たち大人、先輩の思いが入ると感じた。「成人式」には成人になったという1つの節目としての大きな意味合いがあった。</p> <p>「二十歳の集い」や「二十歳の祝い」という名称は非常に今風で良いが、若い人の思いだけでなく、先輩になる大人の思いも反映されてよい。節目なので「〇〇式」という名称は残ってよいのでは。アンケートでも「二十歳向かえ式」、「五分の一人生式」など、節目としての「式」という名称を記述した方もいる。例えば、「二十歳の集い～成人式～」「成人式～二十歳の集い～」など両方併記という形もあり得る。節目という意味での「式」という名称は捨てがたいと思う。</p>
議長	<p>今出た貴重な意見をもとに、近隣の市町村の状況を考慮し、アンケート等を尊重しながら、最終的に市長判断により決定してもらおう。</p>
事務局	<p>6 報告事項</p> <p>配布の資料の中で、誤りがあったので、訂正願う。名簿No.4の石橋委員の所属団体に坂戸市立図書館協議会副委員長と記載があるが、正しくは坂戸市立図書館協議会委員長である。</p>
事務局	<p>緊急事態宣言が解除されたことに伴い、図書館事業を再開する。事業は、引き続き感染症対策を講じて実施していく。</p> <p>(1) 科学あそび教室の実施について</p> <p>偏光板で遊ぼうと題し、色が変わるステンドグラスを作る。期日は10月24日日曜日、午前と午後の全2回。対象は小学3年生から6年生、各回15人まで。</p>

事務局	<p>(2) 絵本作家による児童文学講演会の実施について 絵本作家の浜田先生を招き、子どもの心に寄り添った絵本作りからと題し、講演会を行う。日時は11月21日日曜日、午前10時から。</p>
事務局	<p>(3) 第6回ビブリオバトル坂戸図書館の実施について 11月21日日曜日、午後3時から1時間の予定で実施。</p>
事務局	<p>7 その他 (1) 入間地区市町社会教区委員研修会について (資料に沿って説明) 現在10名の方から参加予定。</p>
事務局	<p>(2) 第3回坂戸市社会教育委員会議の予定について 令和4年1月を予定。</p>
事務局	<p>(3) その他 社会教育委員の皆様が所属する団体等で表彰を受けたとの報告があったため、披露する。坂戸市文化団体連合会が令和2年9月16日、第53回埼玉県文化団体連合会文化選奨を受賞された。</p>
委員	<p>昨年、文化団体連合会は設立して25年。現在文化団体連合会は埼玉県に約40団体あるが、坂戸市は子どもの体験活動の企画や講演をする等多くの活動をしており、今回の文化選奨の対象になったのでは。今後も引き続き取り組みたい。</p>
事務局	<p>一般社団法人ガールスカウト埼玉県連盟第70団団委員長として、令和3年9月1日に令和3年度坂戸市市政功労者表彰を受賞された。</p>
委員	<p>長く続けられたのも坂戸市の関係者のおかげ。ガールスカウトが坂戸に発団して26年になるが、スカウトと一緒に楽しく活動ができ、様々な経験ができてよかった。これからも長く続けられるよう、スカウトたちと活動していきたい。今後も指導願う。</p>
教育長	<p>追加で報告する。</p>

副委員長	<p>子どもが減っているという話が出たが、令和2年度末に卒業した中学生は市内で950人。今年の小学校の入学生が753人。市の人口も減少しているが、子どもだけで9年の間に200人近く減っており、危機感を持っている。子供会やスポ少、ガールスカウトの活動など、子どもに関わる諸団体が減少しているのが実情である。</p> <p>高齢化を迎える中で高齢者が増えており、公民館の利用団体等が増えているかという点、そうでもない。新型コロナウイルスの関係もあるが、定期利用団体等もかなり減少している。そのことも考えて、これからまた意見も伺いたい。</p> <p>8 閉会</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------